

＝患者・施設利用者の給食改善（治療食・介護食の充実めざして）＝

食べる事は命をささえる源であり、生きる原点です。私たちの仕事は、患者・利用者さんの命をささえる原点そのものです。しかし、どこの現場でも人手不足に悩み、忙しさに忙殺されています。それでも私たちは日常業務に工夫を重ね様々な給食改善、業務改善・拡大に取り組んできました。

それに伴って、調理機器（技術）も進歩し、調理現場の環境改善も進み、労働環境の改善が進んだところもあります。給食の提供方法も、クックサーブをはじめ、クックフリーズからクックチルというように、施設によって大きく変化してきています。しかし、こういった目覚ましい進歩にもかかわらず、私たちの置かれている現状は年々厳しさを増しています。この間の、医療・介護・福祉の改悪は、給食部門にとって影響が大きく、更なる改善を進めていく上で大きな困難となっています。そして今、自己負担がさらに拡大されようとしています。このことは、自己負担の増大にとどまらず、病院・施設給食の提供を金の有る無で区別し更なる困難の拡大に追い込むことは明らかな現実です。このような情勢を打ち破っていく為にも、情勢をしっかりと学び、改悪を許さないたたかいへの積極的な参加と、新たな給食改善への挑戦が重要となります。

給食の質を確保（担保）するのは、調理師・栄養士の努力と日々研鑽した技術です。また、介護施設や医療機関においても、高齢者の栄養確保や食べ難さ克服への新たな食事形態としての介護食や嚥下訓練食、チーム医療としてのNST等の取り組みの広がりには目を見張るものがあります。医療・介護・福祉スタッフとして、それぞれの技術を謙虚に認め高めあうことによって、より良い給食の提供ができます。私たちが提供している給食が、それぞれの施設にとっての特徴となり、それぞれの施設の持ち味となって表現されています。そのような現場の経験を真摯に受け止め交流しあいませんか。そして、自分達の職場・組合・県医労連において実践し、形にしていくことが大切です。特殊な職場や恵まれた職場だけが医療研に参加し、存在しているのではありません。何処にでもある困難だらけの職場からの工夫・実践の報告で、同じ苦労を分かち合える有意義な学習・交流の場です。地道に努力を積み重ねた結果が実を結んだこと、そして、仲間が、労働組合が大きく後押ししてくれたこと、そのことに確信を持った各スタッフの団結と励ましによって実を結んだ成果が医療研にあります。是非、給食の分科会へレポートをお寄せください。日常の工夫や経験をまとめるだけでいいのです。多くの報告を中心に分科会を運営したいと思えます。給食現場から一人でも多くの仲間の参加を呼びかけます。